

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：21301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23560728

研究課題名(和文) 京都における聖祠の配置に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Distribution of Small Ritual Facilities in Kyoto

研究代表者

竹内 泰 (Takeuchi, Yasushi)

宮城大学・事業構想学部・准教授

研究者番号：30553862

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、京都に見られる地蔵などの祠を「聖祠」とし、その配置から都市空間の特質を読み取るための研究である。調査期間において、京都の歴史地区(上京・中京・下京)における聖祠の分布状況と配置を調査した。

本研究では、特に聖祠のうちの地蔵に注目し、その祭礼時の配置変化について調査し明らかにした。さらに、経年的な配置変化について、町割図などの歴史資料等を利用し、その配置変化を追うとともに起因についても明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study is conducted to analyze the characteristics of urban space to investigate the distribution of the small ritual facilities in Kyoto. During the period of this study, I plotted all the small ritual facilities in the historic area (Kami-gyo, Naka-gyo, Shimo-gyo) in Kyoto. In this study, I focused especially on the Zizou and investigated the change of the disposition of Zizou while Zizou-bon festival. Moreover I clarified the successive change of the disposition of Zizou by comparing the historic map data to the situation of today, and also clarified the causes of the disposition change.

研究分野：建築計画

キーワード：京都 聖祠 地蔵 地蔵盆 都市空間 合意

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究は、世界の歴史的都市の共用空間に置かれ祀られる小さな宗教施設を「聖祠」とし、それらの都市レベルでの分布や地区レベルでの配置に注目することから、それぞれの置かれ方に都市空間の特質が読み取れるという着想を持つ。また、それぞれの聖祠が置かれ祀られる背景となる宗教的、地域ごとの日常生活様式など文化的側面も同時に捉えることが研究の前提となっている。聖祠は、特にアジア地域では仏教やヒンドゥ教の影響の強い地域に現れ、ヨーロッパ地域ではキリスト教カトリックの影響が強い地域に現れる現象であり、これら全体を捉え都市空間の特徴を分析していこうとする目標が背景にある(写真1)。



写真1 歴史都市での聖祠の事例 (ネパール)

(2)本研究では、歴史都市のうち、特に京都に注目し調査対象とした。京都の聖祠にはその代表的な地蔵の他に、稲荷など多種の聖祠が置かれ祀られているが、本研究では、特に京都の歴史的地区全体に確認できる地蔵に焦点をあて調査をすすめた(写真2)。京都での聖祠調査は1993年より調査を開始している。しかしその調査範囲は限られていたことから、より広い範囲での聖祠の配置実態を明らかにし分析する必要があった。地蔵に関しては、普段見ることのできる通常時の配置とは別に、祭礼時には移動や出現など配置に変化があることが事前調査で明らかになってきたため、祭礼時を含めた配置を調査する必要もあった。



写真2 京都の地蔵

2. 研究の目的

本研究の目的は、聖祠の配置から都市空間の特質を明らかにする聖祠研究の基盤獲得を目指すものである。京都における事前調査では、部分的な調査範囲にとどまっていたものを京都の歴史地区全体に広げ、より都市的なレベルでの空間特性を捉えることも目的としていた。主な対象である地蔵については、平常時の配置に加え、祭礼時での祭礼状況(祭礼の有無)や祭礼時の配置変化(同一位置での祭礼、移動、出現など)を捉えることから、地蔵の配置パターンの背景にある意味を明らかにすることを目的としている。

3. 研究の方法

研究の方法は、聖祠の配置に関する臨地調査を中心とし、範囲を京都の歴史的地区(上京・中京・下京)を対象とした。臨地調査でのベースマップは住宅地図を用い、調査結果は、京都市から提供を受けた対象地区のデータを用いた。(収集したデータをHP上でデータベース化し公開することを試みたが、運用には至らなかった。)

また、経年による配置変化を捉えるため、過去に調査した資料や歴史資料(町割図)などを収集した。具体的な方法を以下に示す。

(1)対象地区での聖祠の配置調査

すべての種類の聖祠の配置について悉皆調査を行い、地図上にプロットしデータ化した。全てについて配置状況を写真にて記録した。可能な場合とヒアリングも行った。

(2)祭礼時の配置変化調査

(1)で得られた資料をもとに、毎年8月末に行われる地蔵の祭礼時(地蔵盆)に、地蔵盆の悉皆調査を行い、地図上にプロットしデータ化し、配置変化のパターン化を行った。祭礼状況を写真にて記録し、年毎の祭礼場所に変化があるか、日頃の管理はどのようになっているかなどについてヒアリングを行った。

(3)経年による配置変化調査

(1)で得られた資料をもとに、1993年時点で調査した配置資料をもとに地蔵の配置変化を明らかにした。

また、江戸末期から明治期初頭に作成された町割図を収集し、地蔵が記載されているものを抽出し、(1)との比較を行い経年的な配置変化を明らかにし、ヒアリングによりその変化の起因を抽出した。

4. 研究成果

(1)京都の歴史地区における聖祠分布の全容調査により、1,055の聖祠を確認し、その分布状況を図示した(図1)。その内訳は、地蔵849(80.5%)、稲荷78(7.4%)、その他128(12.1%)であった(表1)。但し、地蔵には祭祀形態の近い大日如来や道祖神などもこれらに含んだ。区ごとに比較すると、上京は421(39.9%)、中京は450(42.7%)、下京は184(17.4%)となり、中京で最も数が多いが、



図1 聖祠の分布

上京には御所が含まれているため、聖祠の分布密度としては上京が最も高い。南北の都市断面で比較すると、千本/堀川通り間 (A,D,G,J,M,P) は 468 (44.4%)、堀川/烏丸通り間 (B,E,H,K,N,Q) は 311 (29.4%)、烏丸/河原町通り間 (C,F,I,L,O,R) は 276 (26.2%) となっている。近世、秀吉により御土居構築、天正地割、寺町形成などの都市更新が行われたが、御土居内でも都市化が遅かった西側エリアにおいて聖祠の数が最も多く、寺町が配された東側エリアでは最も少なくなっている。いわゆる西陣エリア (D地区周辺) が最も多く分布しており、路地などが細かく街区構成が複雑なエリアには聖祠が多く分布している様子がわかる。

区	街区	聖祠の内訳				地蔵盆の数と祭礼パターンの内訳				
		総数	地蔵	稲荷	その他	総数	固定	移動	出現	その他
上京	A	66	60	1	5	56	20	22	11	3
	B	74	64	9	1	43	19	17	7	0
	C	55	44	5	6	35	21	10	4	0
	D	132	114	4	14	118	16	62	40	0
	E	76	67	1	8	61	13	31	14	3
	F	18	14	0	4	8	2	4	2	0
中京	G	40	28	3	9	27	20	6	0	1
	H	32	25	2	5	27	0	7	19	1
	I	33	29	1	3	28	3	11	13	1
	J	92	69	9	14	51	16	25	9	1
	K	36	26	4	6	27	6	10	11	0
	L	56	34	11	11	16	4	3	9	0
	M	49	43	2	4	39	11	9	16	3
	N	46	31	6	9	31	8	6	17	0
下京	O	66	43	9	14	44	17	12	15	0
	P	89	75	5	9	40	17	14	9	0
	Q	47	41	3	3	20	6	12	2	0
	R	48	42	3	3	20	4	6	10	0
		1055	849	78	128	691	203	267	208	13
			(80.5)	(7.4)	(12.1)		(29.3)	(38.6)	(30.1)	(1.9)

表1 聖祠分布の内訳 表2 地蔵盆の数と祭礼パターン

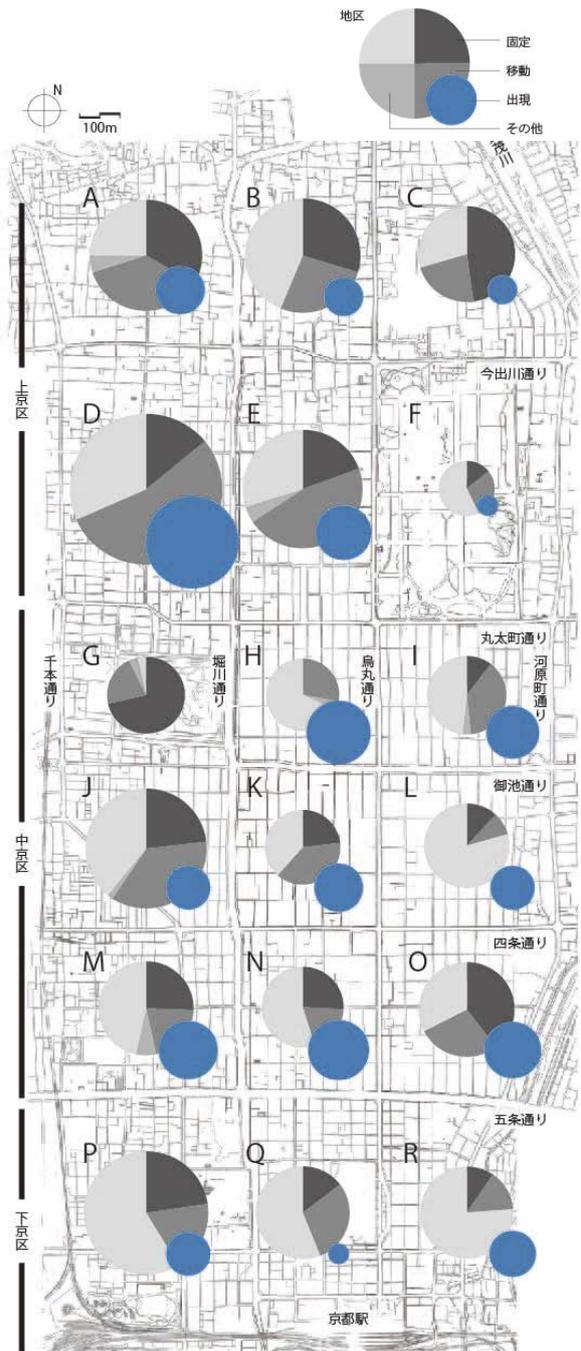


図2 地蔵の平常時と祭礼時の分布変化

(2)地蔵の祭礼時における配置変化

表2では地蔵盆の数とその祭礼パターンの内訳を示した。(同じ場所で祭礼されているものを「固定」、移動を伴うものを「移動」、平常時には一般の目に触れず個人邸や寺院で管理され、祭礼時に姿を現すものを「出現」とした。平常時と祭礼時との関連が確認できなかったものは「その他」とした。)表1に示す平常時における街区ごとの地蔵の数を図2において円の大きさにより示すとともに、表2の内訳を図2の円に重ねて表示した。表2と図2から、上京の地蔵分布の多さと祭礼の活況が明確である。また、平常時の地蔵全てが地蔵盆の際に祭礼される訳でないことがわかる。特にH,L,Rではそれが顕著であり、N,P,Qでも半数以上が祭礼の対象でない。また、いわゆる田の字地区(K,L,N,O)においては京都の代表的な都市祭礼である祇園祭を執り行う町(鉾町)が多くあり、鉾町は地蔵盆を執り行わないため、調査結果にも表れている。

一方、Fを除くA~Gまでの北西エリアでは、「固定」と「移動」が多い。但し、A~Cのエリアでは「出現」が少なく、普段に接している地蔵が祭礼されていることがわかる。他方、中京のG,Jを除く地区では、「出現」の割合が高いことも特筆できる。(Gでは「出現」は無いことも注目できる。)

「移動」では祭礼時の場所決定、更に「出現」ではそれに加え平常時の管理に関する取り決めが必要となるため、より高度な町単位での合意形成がなされていると考えられる。町単位で祀られる地蔵は、町という組織維持機能も持つため、その祭礼のパターンの違いに組織の維持状況を伺うことが可能である。図2は、京都全体でその町組織の維持状況を示しているともいえる。

(3)経年による地蔵の配置変化

①1993年と2009年の地蔵の配置調査を比較することにより、約16年間の配置変化を明らかにした(表3)。

1993年に調査した範囲では276の聖祠を確認している。2009年の調査では335の聖祠を確認しており、その差については、大きくは1993年段階での調査精度によるものであった。

1993年時点で確認できたものを分析対象とした場合、配置が変わらないものは226(82%)、同じ町内で配置に変化があったものは11(4%)確認できた。また、町内から消失したものは39(14%)に上った。

地区	2009年(%)	1993年(%)	配置同じ	配置移動	消失
A	78 (23)	53 (19)	45	2	6
B	83 (25)	86 (31)	71	4	11
C	32 (10)	27 (11)	23	0	4
D	38 (12)	31 (12)	26	2	3
E	52 (15)	37 (14)	29	2	6
F	52 (15)	42 (15)	32	1	9
合計	335	276	226	11	39

表3 2009年と1993年の経年的配置変化

②江戸末期から明治期初頭に作成された町割図のうち、地蔵が記載されているものを抽出し、どのように配置が変化しているかを明らかにした。またヒアリングによって、それぞれの配置変化の経緯について明らかにした(写真3)。

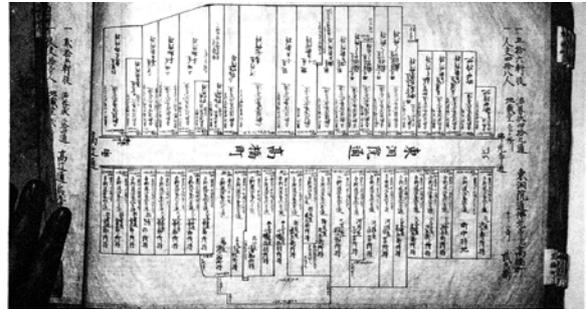


写真3 町割図の事例(高橋町)

町割図で確認できた46の町それぞれで、現状を確認したところ、そのままの位置に祀られているもの3(6.5%)、位置が移動している38(82.6%)、消失しているもの5(10.9%)となっており、ほとんどが移動していることがわかった。移動したもののうち、普段から祀ることの可能な道路や駐車場一角などの共用空間に移動したものが最も多く26(56.5%)、普段は祀ることができない場所に移動したものは12(26.1%)、詳細には、お寺などへの移動は7(15.2%)、個人宅や町籍の町家への移動は5(10.9%)であることが明らかとなった。

移動したものの経緯についてヒアリングにて確認したが、町割図どおりの位置にあったこと自体が記憶されている証言は得られなかった。

移動の起因としては、1944年から始められた空襲による類焼を防止するための建物疎開によるものや、都市計画による道路拡幅なども聞かれたが、土地の売買や建て替えなどを起因とするものがほとんどであった。また、近年は集合住宅への建て替えに際し、前面空地を利用して移動される事例も聞かれた。

③今後の課題

本研究以前に、京都の都市空間において聖祠がどのような配置をされるかについて、調査研究を行ってきたが、本研究において京都の歴史地区全体での聖祠の配置全容を明らかにしたと同時に、地蔵の祭礼状況及び祭礼時における配置変化の実態についても明らかにした。

地蔵の経年的な配置変化においては、年々減少傾向にあることが明らかになったこと、更に、近代以降、相当な地蔵の配置移動があったことも明らかにした。

近代以降、大きな移動の起因があったにもかかわらず、引き続き共同で祀られ続けている背景について考察し、都市空間が維持される仕組みについて明らかにすることが今後の課題となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 5件)

竹内泰、後藤康久、後藤沙紀、柳沢究、魚谷繁礼「京都の聖祠分布および地蔵祭礼時における分布変容 京都の都市空間と地蔵 その5」『日本建築学会大会学術講演会』2014年9月12日～14日、神戸大学(兵庫県神戸市)

竹内泰、脇田祥尚、松井貴之、近藤将輝、相澤啓太「番屋と井戸端地蔵 東日本大震災におけるコミュニティ・アーキテクトの実践と役割 その1」『日本建築学会大会建築デザイン発表会』2013年8月30日～9月1日、北海道大学(北海道札幌市)

後藤康久、竹内泰、柳沢究、魚谷繁礼、後藤沙紀「京都における1993年と2009年の聖祠の配置変容について 京都の都市空間と地蔵 その4」『日本建築学会大会建築デザイン発表会』2013年8月30日～9月1日、北海道大学(北海道札幌市)

後藤康久、竹内泰、柳沢究、魚谷繁礼、千葉大生「京都上京エリアと都心部における地蔵盆の祭礼状況の比較に関する研究 京都の都市空間と地蔵 その3」『日本建築学会大会建築デザイン発表会』2012年9月12日～14日、名古屋大学(愛知県名古屋市)

竹内泰、岩城和昭、佐藤綾香、橋浦高広「パタン(カトマンドゥ盆地、ネパール)チャサル広場における都市施設利用実態調査」『日本建築学会大会建築デザイン発表会』2012年9月12日～14日、名古屋大学(愛知県名古屋市)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹内 泰 (TAKEUCHI, Yasushi)

宮城大学・事業構想学部・准教授

研究者番号: 30553862

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

柳沢 究 (YANAGISAWA, Kiwamu)

名城大学・理工学部・准教授

研究者番号: 60368561

(3) 研究協力者

魚谷 繁礼 (UOYA, Shignori)

後藤 康久 (GOTO, Yasuhisa)

後藤 沙紀 (GOTO, Saki)